

資料へのご意見に対する回答

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|-----|-----|--------|---|--|
| 1 | 国総研 | 小原 | システム化 | <p>当方、国総研の研究課題として類似の課題に取り組んで来ましたので、その経験上の課題とアプローチを簡単にまとめたものを添付いたします。</p> <p>強いて挙げれば に該当するコメントとしてご査収下さいますようお願いいたします。</p> <p>なお、方向性について当方正確に理解できていない部分もあるかと思しますので結論としてどうすべきかについては差し控えさせて頂きたいと存じます。</p> | <p>ご意見については、いずれも重要だと認識しています。ご意見を踏まえ、今後の検討を進めていきます。</p> <p>精度に係るご意見につきましては、実際に利用されるデータ仕様とするためには重要な課題と認識した上で、今後の検討に当たり留意させていただきたいと思っております。</p> |
| 2 | パソ | 坂下 | データ標準化 | <p>前回の会議の際にも発言させていただきましたが、どのように標準化すべきか、という点が重要であることは理解できますが、それ以上に、何を共有化すべきかという点を整理することが重要であると考えます。XML化やメタデータの標準化は、何をがある程度整理した後でも、十分に検討できることだと思います。</p> <p>昨年度の議論を十分に把握していないため、既にこの点については整理が終わっているということかもしれません。対象とする情報についての整理が終わっているのであれば、ご提示いただきたくお願いいたします。</p> | <p>ご意見を踏まえ、災害リスク情報等として公開・流通の対象と想定している情報について、別添資料の2～5ページにお示しました。</p> <p>また、具体的なデータ項目については、資料5-1の5ページなどでお示したように、既存仕様類のデータ項目の整理と、それと並行して利活用場面の整理を行った上で、データ項目の追加について検討を行います。</p> |
| 3 | 人防 | 宇田川 | データ標準化 | <p>P6「利活用場面」は、細分化してから作業を始めた方がよいのではないかと。少なくとも「利用主体(住民、市町村、府県、ライフライン企業など)」「時間(平常時、発災後)」など</p> | <p>ご意見を踏まえ、利活用場面については、細分化した上で検討します。</p> |
| 4 | 人防 | 宇田川 | データ標準化 | <p>既存規格にもとづき、利活用場面、追加情報等を整理する流れであるが、利活用場面から必要となる情報を整理し、必要となる情報から、既存規格のデータ項目と追加情報を振り分ける方が現実的ではないかと。災害時や図上訓練時のクロノロなどを見ながら、利活用場面を定義し、各主体がそれぞれ必要となる情報を落としていく。その作業の際の参考資料として、既存規格のデータ項目を、補助資料として準備しておいてはいかかがか。</p> | <p>ご意見を踏まえ、データ項目の検討に当たっては、既存仕様類のデータ項目の整理と並行して、利活用場面の整理を行います。</p> |
| 5 | 人防 | 宇田川 | データ標準化 | <p>資料4にて、H21では、基礎データ類は規格化の対象としないとのことですが、被害想定結果のメタデータの項目としては含まれ</p> | <p>被害想定を行うために使用した基礎データ類に関する情報については、データ利用者にとって重要だと認識し</p> |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|--------|-----|--------|---|--|
| | | | | <p>るということでしょうか。地震被害想定では、建物データ、断層データ、PTデータなど、多くの基礎データ類を用います。その点の作業イメージが、会議を欠席したため、よくわかりませんでした。</p> | <p>ています。 ご意見も踏まえ、メタデータ項目の検討に当たっては、基礎データ類に関する情報を含めることも検討します。</p> |
| 6 | プロトタイプ | 中川路 | データ標準化 | <p>NIEM (National Information Exchange Model) を追加されてはいかがでしょうか？ http://www.niem.gov/ XML を標準化する際に NDR (Naming and Design Rules) が参考になると思います。 http://www.niem.gov/pdf/NIEM-NDR-1-3.pdf</p> | <p>ご意見のとおり、NIEM については、XML スキーマの作成に当たって参考とすべき取組だと考えています。</p> |
| 7 | プロトタイプ | 中川路 | 全般 | <p>小原様の資料の中で「データ相互利用の文化を育てる」と書かれている部分が非常に重要であると思います。特にデータ提供者の(政治的、金銭的、技術的)負担を軽減するために、社会貢献度がフィードバックされるような仕組みが必要かもしれません。 たとえば、データ利用者が、その利活用状況を提供者に報告するなど。 各機関・組織は、その事業目的に沿って、コストをかけてデータを収集しているものと思われます。 他組織がそのデータを利活用する場合に、それが、そもそもの事業目的に合っていないと、極端な言い方をすれば、「目的外利用」ということになるかと思えます。 担当者の判断で、目的外利用のためにコストをかけることは、従来のスキームでは、できないのではないのでしょうか。 局所的には、「目的外利用」でも、全体から見れば「最適化」となることを広く文化として育てて、その文化自身がソーシャルキャピタルとなるよう活動していく必要があるかと思えます。 「コストをかけて集めたデータこそ、目的外にも利用しないともったいない」ということが常識となるようにする必要はあるかと。</p> | <p>ご意見については、重要だと認識しています。地理空間情報全般のデータ流通の促進に係る課題として考えていきたいと思えます。</p> |
| 8 | プロトタイプ | 中川路 | 全般 | <p>坂下様のコメントにありますとおり、「何を」を整理するのが大切であると思いますが、「何の目的で」というのも同時に整理するべきであると思います。</p> | <p>本取組は、国が中心となって、災害リスク情報等のデータの再利用を可能にするための環境を構築し、それらのデータの利活用を推進することを目的としたものです。</p> |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|-----|----|--------|---|---|
| | | | | <p>データの利活用がどのように社会貢献するかを明確にすることにより、データの提供者側の提供動機とすることができるのではないのでしょうか。</p> <p>私のイメージでは、サービス分散マップのようなものです。</p> <p>たとえば</p> <p>河川基本データ提供サービス</p> <p>河川氾濫ハザードマップサービス</p> <p>生物生息状況マップサービス</p> <p>水系水質データサービス</p> <p>というように垂直に分散するサービスや</p> <p>関東地区河川基本データ提供サービス</p> <p>関西地区河川基本データ提供サービス</p> <p>。。。</p> <p>全国河川基本データ提供サービス</p> <p>というように水平に分散するサービスが考えられます。</p> | <p>行政機関が整備した災害リスク情報や、それらを再利用して民間事業者が提供する情報を、国民等が入手し、効果的な予防対策や災害時の適切な避難行動につなげることを目標としています。</p> |
| 9 | 気象庁 | 西潟 | データ標準化 | <p>現在の検討方針では、まずノンリアルタイムな情報を対象にデータの標準化を検討することですが、最終的にリアルタイムの情報も含めた標準化を行う計画ならば、当初からリアルタイムな情報も検討対象に含めるべきと考えます。防災WG（第1回）の発表で当庁から取り組みを案内していますように、気象庁発表の文字情報については「気象庁防災情報XMLフォーマット」を策定し標準化を終了しています。気象庁としましては、本取り組みの意義は理解しておりますが、当初に当庁フォーマットが検討対象とならず、一定の標準化が図られた後に対象とされても、取り組みに協力できる余地が小さくなると懸念しております。</p> | <p>「基礎情報」や「観測情報」等既にXML化等の規格化が進められている情報については、それらの既存規格を活用する方針としています。</p> |
| 10 | 早大 | 井手 | データ標準化 | <p>小原様の資料を拝読、よくまとめられておられると感服いたしました。相互の文化を尊重しながら時間をかけつつ融合を図るのがポイントかと思考いたします。</p> <p>西潟様のご意見にも賛同します。リアルタイム性の低いところからシステムの構築を始めると、タイムクリティカルなものを包含する段になって齟齬を生じることがあります。データの大きさもハード</p> | <p>ご紹介いただいた事例については、将来の検討において、必要に応じて参考にします。</p> |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|------|----|--------|--|---|
| | | | | <p>リアルタイムシステムのビット単位のものから、ニアリアルタイムのものであれば数ワード長もとるものもあり、当初その違いに戸惑いました。</p> <p>事務局原案の第2項について、国際標準になっているかどうかわかりませんがドイツ、フィンランド、エストニアなど、バルト海諸国の警察、消防、国境警備隊、沿岸警備隊、軍で共通に使われている、TETRA システムに何か参考になるものがあるかもしれません。この春調査に赴き、フィンランド政府(国策会社の役員)に調査のために話をつなぐことは可能です。</p> <p>事務局原案の第3項について、防衛省のシステム共通化の中で、データの標準化も図られつつあるようです。必要であれば、担当と調整することは可能です。</p> | |
| 11 | 気象協会 | 鈴木 | データ標準化 | <p>「災害リスク情報等」について理解不足のため、的外れの意見となるかもしれませんが、ご容赦願います。</p> <p>(データ仕様書の作成手順、メタデータ仕様書の作成手順)については特に異論はございませんが、「災害リスク情報等」が将来的に利活用されるのであれば、時間の概念をもう少し取り入れてはいかがでしょうか。規格化によって、ある特定の時期の静的な「台帳」のようなものができあがってしまうのではと危惧します。INSPIRE が規定するメタデータ項目には時間参照がありますので、取り入れるべきと思います。</p> <p>JMA 西潟様のご意見にあるようにリアルタイムの情報を含め、利活用できるものが望まれると思います。</p> <p>またリアルタイムとは別に、過去の履歴を紐解けるように、データあるいはメタデータの作成日時だけでなく、それらが有効である(もしくは”であった”)日時あるいは期間が項目に含まれるように検討する必要があるかと思います。</p> <p>例えば、将来においては、その時点の災害リスクももちろん重要ですが、克服されたとされる過去の災害リスクなどが、履歴として検索できるデータの蓄積が必要となるかと思います。</p> | <p>時間の情報については、災害リスク情報等の公開・流通に当たって重要な情報だと認識しています。</p> <p>資料5 - 1の11ページなどでお示ししたとおり、メタデータの規格化に当たっては、INSPIRE 等メタデータに係る既存規格の内容を踏まえて検討を進める方針としています。</p> <p>ご意見も踏まえ、メタデータ項目の検討に当たっては、INSPIRE 等の内容を参考に、時間の情報を含めるも検討します。</p> |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|------|----|--------|---|---|
| | | | | さらに、規格化からはずれる意見なのかもしれませんが、非定型な情報（テキスト、画像、映像、音声）も将来的に組み入れられるようなメタデータの設計にしていただけたらと思います。 利活用側で工夫すれば良いことなのかも知れませんが、活用イメージを膨らませるには必要ではと思います。 | ご意見を踏まえ、メタデータ項目の検討に当たっては、非定型の情報を含めることも検討します。 |
| 12 | 防災科研 | 白田 | システム化 | <p><情報の提供方式の想定について> 現在提示されている原案では、「データをダウンロードして"静的に"使用するという利活用モデル」が想定されていますが、現状では、GeoRSS や WMS/WFS/WCS/WPS 等、「データをダウンロードせず必要な範囲を指定して"動的に"使用するという利活用モデル」も確実に増えてきております。 後者も想定した検討が必要ではないでしょうか。</p> <p><データの目的外利用、相互利用、相互運用の議論の必要性とメタデータについて> 本原案で検討されている内容は、非常に重要であり、完成し普及すれば有用であると認識しております。ただし、災害対策の現場（事前・事中・事後）では、本原案で対象とならないであろうデータを含め、利活用できるデータは可能な限り利活用し、その中で最適解を求めることが要求されます。その利活用を、誤ったものとならないよう留意しつつ、積極的に活発化していくことが、本WGの命題である「防災分野における地理空間情報の利活用推進」に必要なことではないかと考えます。 NIL 小原様の資料や PRO 中川路様のコメントにもありますが、目的外利用も含めたデータの利活用総体から見た「最適化」、相互利用、相互運用といった文化の実現に向けた取り組みが、データの標準化と並行して必要ではないでしょうか。</p> | <p>ご意見については、災害リスク情報等の利活用において重要だと認識しています。 ご意見を踏まえ、資料4の7ページでお示しした「基本構成」の機能の検討に当たっては、当該機能の実装も検討します。</p> <p>ご意見については、重要だと認識しています。地理空間情報全般のデータ流通の促進に係る課題として考えていきたいと思います。</p> |
| 13 | 防災科研 | 白田 | データ標準化 | <p><自然災害リスク情報の定義について> 原案では、自然災害リスク情報の例として「想定浸水区域、震度分布、斜面崩壊箇所等」が提示されていますが、これら以外に、どこまでは今回の標準化の範囲で、どこからは違うのか、明示が必要ではないかと考えます。</p> | <p>ご意見も踏まえ、災害リスク情報等として公開・流通の対象と想定している情報について、別添資料の2～5ページにお示しました。 なお、「災害リスク情報」の名称については、これまで検討を進めてきた経緯も踏まえ、現時点で見直すことは</p> |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|----|----|-------|--|--|
| | | | | <p>例えば、ある土地の自然災害リスクを考慮する際、その土地の地形図、空中写真からそのリスクを読み取るという作業が「災害対応やサービスの創出」の中で発生する場合があります。この場合、その地形図や空中写真は、広義には「自然災害リスク情報」と捉えることができます。また、災害履歴、体験談、被災写真なども、今後起こりうる災害リスクを考える上では「自然災害リスク情報」という概念に含まれます。実際、すでに多くの場面で、このような広義の捉え方で「自然災害リスク情報」という言葉が使用されています。したがって、本原案でここまで広く標準化を行わないのであれば、ここでは「自然災害リスク情報」という名称を使用しない方が、混乱を避けられるように思います。</p> <p>また、逆に、狭義であれば、リスクとは本来被害・損害の可能性という概念を含むものであり、現在提示されている例は狭義にはリスクとは言い切れないと捉えることもできます。想定浸水区域、震度分布、斜面崩壊箇所等は狭義にはハザード情報であるため、これらを標準化するのであれば、同様にリスク評価のための社会統計データや建物データなどの暴露側の情報、リスク評価の結果データ(建物全壊数、死亡危険度など)も範囲内となるのか等、リスク評価のエンドポイントに応じたデータの範囲と定義が必要であると考えられます。</p> <p>したがって、今回想定されているデータの範囲は、この広義と狭義の間に存在する、例えば「自然災害ハザード評価データ」と呼ぶ方が一般的には理解しやすいのではないかという印象を受けます。</p> <p>以上を踏まえ、PAS 坂下様とCAO 本橋様のやりとりにある「対象とする情報」とともに、その範囲と定義が明確にされることを期待いたします。</p> | <p>せず、その内容を明確にすることで対応したいと考えています。</p> |
| 14 | 東大 | 山田 | システム化 | <p>大体のところ皆さんのご意見と変わるところはないのですが、以下の点については明確にしておくのが望ましいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このシステムは「誰が」「何のために」「どのような場合に」使うことを目標としているのか？ <p>という点です。これまでいただいた資料では、この点が明確でない</p> | <p>本取組は、国が中心となって、災害リスク情報等のデータの再利用を可能にするための環境を構築し、それらのデータの利活用を推進することを目的としたものです。行政機関が整備した災害リスク情報や、それらを再利用して民間事業者が提供する情報を、国民等が入手し、効</p> |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|------|-----|--------|--|--|
| | | | | <p>ように感じました。この点が明確にされれば、議論の方向も自ずから定まるのではないかと思います。</p> <p>あと、ITS の分野でも災害情報の標準化が進められているという情報が入ってきています。ただし、ISO への提案には至っていません。欧州の TISA で標準化が進められていますが、詳細は不明です。</p> | <p>果的な予防対策や災害時の適切な避難行動につなげることを目標としています。</p> <p>欧州の ITS の取組については、改めて詳細をお教えいただければと考えています。</p> |
| 15 | SPAC | 渡辺 | システム化 | <p>について、詳細は不明ですが、データ統合解析システム (DIAS) (東大 小池先生他) があるかと思ひます。</p> | <p>データ統合解析システムについては、参考にすべき取組だと認識しています。特に、資料3の3ページなどでお示した用語辞書の整備に当たっては、DIAS の協力を得て実施する方針としています。</p> |
| 16 | 人防 | 宇田川 | システム化 | <p>について現状では、都道府県・市町村による地震被害想定などのデータは、データ配布ではなく、PDF の報告書や、JPG での画像配布がほとんどであると思ひます。</p> <p>したがって短期の目標もあれば、提示した方がよいと思ひます。</p> | <p>災害リスク情報等の実データの現状については、ご意見のとおりだと認識しています。</p> <p>PDF の報告書や JPG での画像についても、メタデータの登録により「災害リスク情報を公開・流通させるための仕組み」で取り扱うことが可能であることから、ご指摘も踏まえ、それらの資料を公開・流通の対象とすることも検討します。</p> |
| 17 | 測技協 | 羽鳥 | システム化 | <p>データ仕様やメタデータの運営主体はどこの機関なのか？</p> | <p>個別の災害リスク情報に係るデータ仕様やメタデータについては、資料4の7ページでお示したとおり、実データを整備している各機関が作成・登録することを想定しています。</p> |
| 18 | 測技協 | 羽鳥 | システム化 | <p>災害リスクの情報を配信する場合の利用者をどう考えるか。 (一般ユーザがどこまで利用可能な情報なのか不明)</p> <p>現在の基本構成案は非常に大きな政府のデータを対象にしているが、公開される情報がどれほどのものなのか分からないと流通仕様も決まらないのではないかと。</p> | <p>災害リスク情報等として公開・流通の対象と想定している情報については、別添資料の2～5ページでお示したとおりです。</p> <p>また、利用者については、別添資料の2ページでお示したとおり、災害リスク情報等を利用したサービス提供者事業者等、国民等を想定しています。</p> |
| 19 | 測技協 | 羽鳥 | データ標準化 | <p>災害時の対策計画を検討する場合に、流域情報や社会資本の整備状況等を簡易に入手できるのは魅力的であるが、これらの情報は空間情報と属性情報が上手く組み合せて流通すべき。</p> <p>そのため、非常に大掛かりなデータ仕様を組まないといけないことになるのではないかと。ある程度流通しやすい(利用されやすい)</p> | <p>災害リスク情報等として公開・流通の対象と想定している情報については、別添資料の2～5ページでお示したとおりです。</p> <p>なお、「災害リスク情報等に関連する情報」として整理した「基礎情報」や「観測情報」については、XML 化等</p> |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|-----|----|--------|---|--|
| | | | | データから流通仕様を整備してはどうか。 | の規格化が進んでいることから、それらの規格を活用し、当面の規格化の対象範囲外とする方針としています。 |
| 20 | 測技協 | 羽鳥 | データ標準化 | <p>メタデータ作成仕様について要望したい。DMのメタデータには日付・責任者情報・地理境界座標など様々な情報を登録するが登録内容が明確になっておらず作成時に悩む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例1：（日付）（契約日 or 作業日 or 納品日？） ・ 例2：（責任者情報）（発注者 or 受注者？） ・ 例3：（地理境界座標）（実際の作業範囲 or 作業範囲を含む図郭座標？） <p>また、登録する項目が定められておらず何をどこまで登録するか困っている。メタデータを構成する最低限の情報登録だけで良いのか？</p> | <p>ご意見を踏まえ、メタデータ仕様の検討に当たっては登録すべき情報を明確にすることに留意して行ないます。</p> |
| | | | | <p>砂防基盤図業務でメタデータを作成する場合、国土地理院のメタデータエディタを使用しているが、砂防基盤図事業に特化したエディタではないので、各社バラバラの考えで作成しているのが現状。そのため、内容がバラバラであり使い物にならないメタデータになっているように思われる。</p> <p>この反省を踏まえ、メタデータ作成支援ツールの整備にあたっては、災害リスク情報に特化したものものとし登録項目を極力プルダウンで選べるような仕組みにいただけると効率的に作成できると考える。</p> | <p>ご意見も踏まえ、メタデータ作成支援ツールの検討に当たっては、効率的なメタデータの作成に留意して行ないます。</p> |
| 21 | 測技協 | 羽鳥 | システム化 | <p>防災科研の災害リスク情報プラットフォームは、地震に特化しているが、フォーマットも既に公開されている。 <http://bosai-drip.jp/></p> | <p>防災科研の災害リスク情報プラットフォームについては、これまでも情報交換を行っており、今回は、システム化部会とデータ標準化部会の両部会にご参加いただいています。</p> |
| 22 | 測技協 | 羽鳥 | システム化 | <p>誰が誰に対して行うサービスなのかを考える必要がある。</p> | <p>本取組は、国が中心となって、災害リスク情報等のデータの再利用を可能にするための環境を構築し、それらのデータの利活用を推進することを目的としたものです。行政機関が整備した災害リスク情報や、それらを再利用して民間事業者が提供する情報を、国民等が入手し、効</p> |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|-----|----|--------|--|---|
| | | | | | 果的な予防対策や災害時の適切な避難行動につなげることを目標としています。 |
| 23 | 測技協 | 羽鳥 | データ標準化 | 災害リスクの重複度合いがわかるとよい。たとえば浸水想定範囲の場合、ここのエリアで家を建てようとした時に、2階建てよりも、2階建て+3階(納戸)だとか、宅盤を50cm上げる等の検討材料になる。 | ご意見については、利活用場面の検討に当たって参考にします。 |
| 24 | 測技協 | 羽鳥 | データ標準化 | 土砂災害防止法の区域指定情報等、法指定情報が同時に得られるとよい。 | ご意見も踏まえ、「土砂災害」に係る具体的なデータ項目の検討に当たっては、土砂災害防止法の区域指定情報等の法指定情報を含めることも検討します。 |
| 25 | 測技協 | 羽鳥 | データ標準化 | 不動産業などは、災害リスクの網の重複度合は地価に直結するので、活用範囲も広がるのではないかと。 | ご意見については、利活用場面の検討に当たって参考にします。 |
| 26 | 測技協 | 羽鳥 | データ標準化 | 広域避難訓練、局所的避難訓練等、校区等の単位での訓練で実用可能なデータを整備して欲しい。 | 実データの整備については、それぞれ所管する機関で行われるべきものです。 なお、ご意見については、利活用場面の検討に当たって参考にします。 |
| 27 | 測技協 | 羽鳥 | データ標準化 | 個人レベルでの危険度察知の訓練、教育に有効なデータを整備してほしい。 | 実データの整備については、それぞれ所管する機関で行われるべきものです。 なお、ご意見については、利活用場面の検討に当たって参考にします。 |
| 28 | 測技協 | 羽鳥 | システム化 | 資料5-2に、ある程度収集される情報は記載されているが、実際のところ、これを集めて利用できるか疑問。 例えば、浸水想定の中から情報を抜き出す場合においても、浸水想定範囲のごく一部のデータを必要としたユーザに正しくデータが渡る仕組みができるか？ | 実データの取得については、資料4の6ページでお示したとおり、メタデータに登録されているデータ公開先のURL情報を通じて行われることを想定しています。 なお、ご意見については、同じく資料4の10ページでお示した将来像の機能の検討を行うに当たって参考にします。 |
| 29 | 測技協 | 羽鳥 | システム化 | メタデータに記述されるデータ項目による情報の検索だけでは、必ずしもユーザの満足するものが得られるとは限らない。メタデータを仲介するということは、メタデータに記述される項目でしか検索ができないということであり、固定の検索キーワードで検索する限り、検索結果に偏りができるからである。 また、メタデータの整備という観点から、既存のデータベースが | ご意見も踏まえ、「災害リスク情報を公開・流通させるための仕組み」の機能の検討に当たっては、資料4の7ページでお示した「災害リスク情報データのメタデータ、データ仕様のメタデータ、データ仕様の全てを対象とした任意キーワードによる検索機能の実装」についても検討いたします。 |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|--------|----|--------|---|---|
| | | | | <p>利用し難くなる可能性がある。(統一された仕様のメタデータに、再整備する必要があるのではないか)</p> <p>ある程度の検索の自由度を持たせるためにも、Yahoo や Google 検索のような、「任意キーワード検索」機能を装備することが望ましい。</p> | <p>なお、メタデータの再整備については、資料4の4ページなどでお示した「統一的な方法で検索」の実現を図るため、ご意見のとおりだと考えています。</p> |
| 30 | APPLIC | 武藤 | データ標準化 | <p>資料5-2のp7. 図2の発災時及び発生の情報の国内の枠に記載の変更を下記のとおりお願いいたします。</p> <p>「APPLIC 2009.3 防災業務アプリケーションユニット標準仕様 V1.0」</p> | <p>ご意見のとおり、資料を修正します。</p> |
| 31 | 早大 | 井手 | システム化 | <p>事務局原案第1項「基本構成において、追加すべき点や工夫すべき点について」、すでに検討されているのかもしれませんが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション環境のための疑似データ、過去データ格納のためのDBも検討すべきではないでしょうか。 ・また大局的な見地から情報の共有を図るだけでなく、混乱を避けるためにフィルタリングすることも検討すべきではないでしょうか。 <p>事務局原案第2項「メタデータやデータ仕様を効率的に作成・登録するための方法について」、すでに検討されているのかもしれませんが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たたき台となるベースを選定し、その設計思想を明らかにし、それに対して過不足等を検討して構築するのが効率的であると考えます。 <p>単なる寄せ集めだと設計思想の軸が幾重にもできてこのようなシステムに求められるシステム拡張時の機能の位置づけが不明確になる恐れがあります。各省庁や企業、組織ごと、担当相面も異なり、行動はそれぞれ異なるものの、そのポリシーは一貫させる必要があります。危機管理システムはCentralized Design and Decentralized Decisionであるべきです。</p> <p>米軍の共通プラットフォームのCOE(現NECS)を見ていると、ミサイル迎撃から潜水艦追尾までハードリアルタイムでマルチミッションである米海軍のシステムをたたき台にして構築が行われた</p> | <p>「災害リスク情報を公開・流通させるための仕組み」については、資料4の5ページでお示したとおり、災害リスク情報等のデータの再利用を可能にするための環境を構築することを目標としたものであり、管理するデータについては、7ページでお示したとおり、災害リスク情報データのメタデータ、データ仕様のメタデータ、データ仕様の三つとし、各機関が整備するデータについては、これまでと同様、分散管理とする方針としています。</p> <p>なお、ご紹介いただいた事例については、将来の検討において、必要に応じて参考にします。</p> |

| No. | 所属 | 氏名 | 分類 | いただいたご意見 | 回答 |
|-----|----|----|----|--|----|
| | | | | <p>とのこと。おそらく日本の省庁の中でも同様な任務を負い、気象及び海象、宇宙から海中まで、最前線から後方まで、ハードリアルタイムからニアリアルタイムまでのシステムを運用し、自己完結的にデータを保有している防衛省のシステムをたたき台にするのも一つの案かと存じます。</p> <p>事務局原案第3項「複数の機関のデータ仕様やデータを流通する仕組みの先進事例について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事柄防衛省のシステム構築に関与しているのですが、平成18年の統合以来陸海空自衛隊の持つシステムの共通化が促進されつつあり、大規模システム統合のノウハウが蓄積されつつあります。私自身も平成15年海上作戦部隊指揮統制システムの構築に携わり、陸海空、及び米軍との情報接続のためにデータの整合から仕様の調整までを行いました。 <p>事務局原案第5項「P.7の基本構成の仕組みによりデータ仕様やデータを取得する際に、搭載を要望する機能（ex.検索方法や表示方法等）とその理由について（機能要件案作成の参考として）」すでに検討されているのかもしれませんが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション機能はぜひお願いできればと思います。 <p>情報は文脈の中で意味づけられるものですから、その機能を用いて国民にどう行動することが賢明なのかドクトリンのようなものを示しておかないと、情報の恣意的理解により混乱が生じる可能性があると思います。また事に臨んではオペレーション計画作成立案時の論拠となり、実施前のリハーサルを行うことができるようになります。</p> <p>防衛省の技術研究本部にはIEEE規格に準拠したネットワーク上で活用できるモデリングアンドシミュレーションの基盤があり、隊内では無償で活用できますが、国家の予算を投じて作成したものですから、交渉次第で活用できるのではとも思います。</p> <p>以上時間を切って大変申し訳ありませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。</p> | |